日本認知心理学会第20回大会@神戸大学・関西学院大学（2022.10.15-16）

好きこそ読みの上手なれ

――物語に対する好意と読書習慣が文章の印象に及ぼす影響――

〇井関 龍太[1]・菊池 理紗[2]・望月 正哉[3]

[1]大正大学心理社会学部・[2]東京大学大学院・[3]日本大学文理学部

研究の背景

物語に対する態度

・「物語が好き」「本を読むことが好き」
　国語学習の動機づけに結びつくという期待から好意的に捉えられることが多い
→これらの特性の背景には，物語を読んでいるときの主観的体験の違いがあるのか？
a）物語や本を好んで読む個人差の解明
b）読解スキル向上にとっての示唆：
・他のジャンル（評論など）を好む人々との違いは？
　フィクションを好む傾向と共感性には相関がみられるが，ノンフィクションではこの傾向はみられない（Fong et al., 2013）
→物語特有の読書体験が存在する可能性

本研究の目的

物語を読むのを好むことと，実際によく読む経験が，物語文章を読む際に生じる主観的印象に及ぼす影響を検討
・物語を好むことから生じる潜在的な効果
a）登場人物や場面などをよりくわしくイメージする
b）同じ内容をよりポジティブに捉える
・物語をよく読むことから生じる潜在的な効果
c）同じ文章でも，より簡単に感じる（読解力の向上）
d）理解が早いために展開をより早く感じる

方法

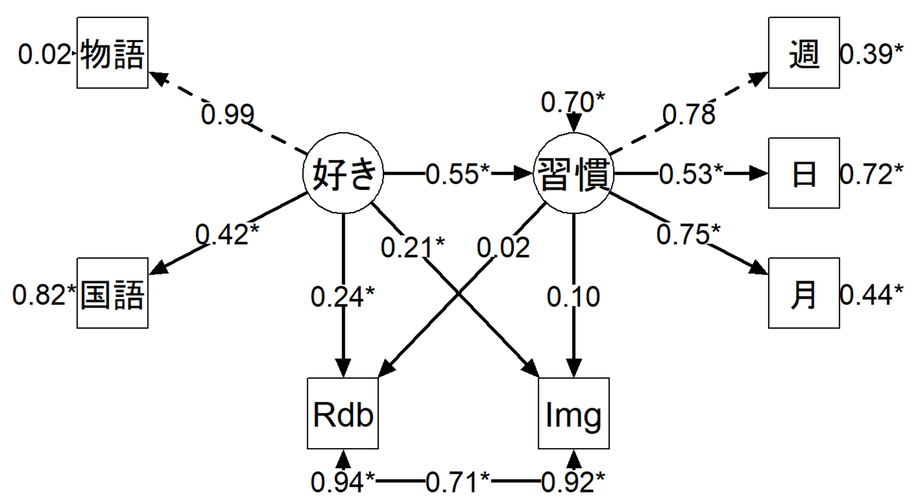
材料　物語文章から抽出した38の段落
・青空文庫の中から底本が1980年以降に発行されたテキストをランダムに200作品抽出
・それぞれの作品から101～300字の段落を抽出（平均162.47字, SD = 48.01）

手続き　オンラインで調査を実施
・38の文章を半数に分け，およそ同数の参加者に割り当て
・質問項目：各文章を読んで，以下について5件法で回答
（1）どのくらいわかりやすいと思うか
（2）どんな印象を持ったか（ネガティブ～ポジティブ）
（3）登場人物や場面のイメージがどのくらい浮かんだか
（4）話の進みがどのくらい早いと思ったか
・DQS（Directed Question Scale）：物語文章の代わりに，選んでほしい選択肢を指定する文章を1つ含めた
・読書に対する好意：物語を読むことが好きか，国語（現代文）は得意であったか（6件法）
・読書習慣：週に何日くらい本を読むか，読書時間は一日何分くらいか，一か月に何冊読んだか（数値入力）

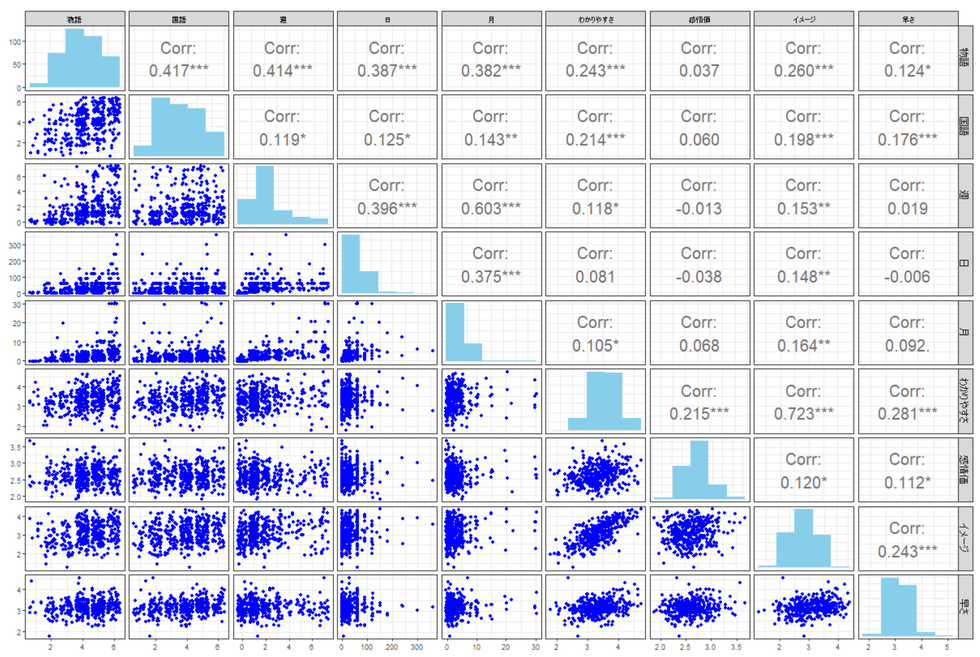
参加者　クラウドソーシングサービスに登録している18～64歳のワーカーを400名募集
・全員が第一言語は日本語であると回答
・DQS全問に指定通り回答した385名を分析対象とした
　性別：男性176名，女性208名，無回答1名
　年齢：20代50名，30代136名，40代134名，50代52名，60代13名
※ここで報告するデータは，井関他（印刷中）と同一の調査によるものであり，法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会の承認のもとに行われた（承認番号21-0097）

結果と考察

構造方程式モデリング



・読書に対する好意と読書習慣についての潜在変数を構成
・読書に対する好意から読書習慣へのパスを仮定
・2つの潜在変数から文章の印象評価についての4つの観測変数へのパスを設定
・わかりやすさ（Rdb）とイメージしやすさ（Img）へのパスのみ有意
・最終的なモデルの適合度：RMSEA = 0.052, CFI = 0.99, TLI = 0.97
※点線は係数を1に固定したパスを表す



・物語が好きな人ほどよく本を読む
・物語が好きであることは物語文章を読む際の主観的印象に影響
a）好きであるほど同じ文章をより**わかりやすい**と感じる
b）好きであるほど登場人物や場面の**イメージが浮かびやすい**
・文章を読む習慣そのものは主観的印象に影響しない
　物語を好きであることには，読みの経験を重ねること以上の何かがある

※本研究はJSPS科研費20H01764の助成を受けた。